

第1章 種差海岸観光ビジョンの基本的な考え方



海から望む種差海岸天然芝生地

1. ビジョン策定の趣旨

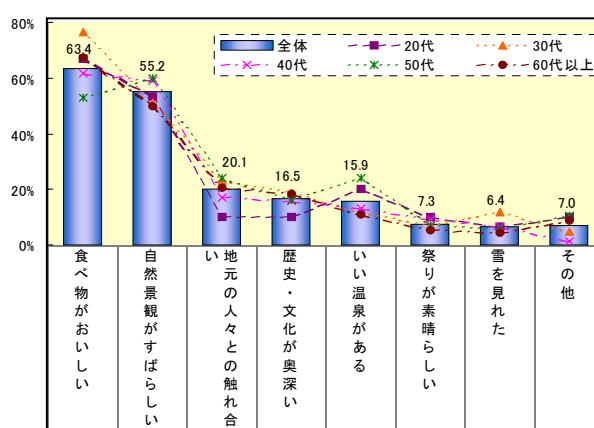
八戸市では、東北新幹線八戸開業(平成14年)を目前に控えた平成11年に、市民をはじめ行政並びに企業の文化観光振興に対する目標となる「八戸市観光基本計画」を策定し、これまで様々な観光振興施策に取り組んできました。その結果、新幹線開業以後、八戸市への観光客入込数は年々増加しています。

しかし、平成18年3月に首都圏在住の方を対象に行った「八戸市観光資源認知度調査」では、当市の観光資源は全般に認知度が低い結果となりました。一方、来訪経験者の満足度は85.2%と高く、その理由の主なるものは「食べ物がおいしい」「自然景観が素晴らしい」という結果でありました。

全国各地では今、観光客のニーズが多様化し、観光振興の様々な取り組みが行われています。当市においても、平成22年の東北新幹線新青森駅開業を控え、これを第二の好機として捉え、当市の観光資源を活かした観光振興施策を展開していく必要があると考えます。

八戸市には、市全域にわたり、祭り、自然、食、歴史、文化など様々な観光資源があります。市ではこれらの観光資源をフィールドミュージアム(※)として位置付け、観光振興施策を展開することとしております。その中の1ゾーンである自然景観の素晴らしい種差海岸について、認知度調査の結果を踏まえ戦略的観光振興を図るため、「八戸市種差海岸観光ビジョン」を策定するものです。

八戸への来訪満足理由(八戸来訪経験者)



<平成18年3月に実施した「八戸市観光資源認知度調査」調査報告書より抜粋>

(※)フィールドミュージアム:「フィールドミュージアム」とは直訳すると「野外博物館」となりますが、従来の博物館や美術館とは異なり、八戸市全域を博物館に見立てたものです。

2. ビジョンの位置づけ

八戸市種差海岸観光ビジョンは、第5次八戸市総合計画前期推進計画を踏まえたものであるとともに、フィールドミュージアム八戸の1ゾーンである渚ミュージアム(種差ミュージアム)に特化した観光施策の整備計画であり、今後のあるべき姿や整備の方向性を明確にするものです。

なお、本ビジョンは、地元住民や学識経験者をはじめ、観光関係団体、ボランティア団体等からの意見をもとに策定したものです。

3. 種差海岸を取り巻く状況

種差海岸は、青森県南東部の太平洋岸にあり、岩手県から続く三陸リアス式海岸の北端に位置しております。燕島が、ウミネコの繁殖地として国の天然記念物に指定(大正11年3月8日)されたのをはじめ、種差海岸は、国の名勝(昭和12年12月21日)と県立自然公園(昭和28年6月10日)に指定されました。

海岸線は、荒波の浸食によってできた海食崖と広大な砂浜や自然の芝生が自生する芝原など、変化に富んだ種差海岸独特の景観を形成しています。また、種差海岸は、南下する寒流と北上する暖流の影響を受けるため、分布の南限あるいは北限となる植物も見られ、春から秋にかけて約640種類の海浜植物・高山植物が咲き誇ります。

このような特徴を持つ種差海岸には、これまで司馬遼太郎、大町桂月、佐藤春夫をはじめとした文学者や吉田初三郎、東山魁夷などをはじめとした芸術家など多くの著名人が訪れ風光明媚な景勝の地を絶賛し、作品にその印象を描いています。また、種差海岸の景観は、映画やテレビドラマのロケーション地となり数多くの名作の舞台に利用されています。その他にも数々の百選に認定されるなど、当市のかげがえのない財産のひとつになっています。

この種差海岸の景観を多くの人に満喫してもらうために、当市では葦毛崎展望台から種差海岸天然芝生地までの約5kmに遊歩道を整備し、これまで維持・管理を続けてきました。このため、トレッキングや学校の課外授業の場として、広く市民にも親しまれております。また、東北新幹線八戸開業以降は、県外から訪れた観光客が遊歩道を歩く姿を頻繁に見かけるようになりました。

このように、種差海岸は数多くの人に親しまれておりますが、先に実施した八戸市観光資源認知度調査では、その魅力が全国に十分伝わっていないという結果になりました。そこで、

当市を代表する観光資源であるこの海岸の魅力を、世界に向けてより一層発信していく必要があります。

また、現在の種差海岸は、かつて遊歩道付近に咲き誇っていた貴重な植物群が減少するなど、名勝指定当時とはその景観を異にしており、かつての自然景観を取り戻すことを目指し、環境保全についても考える時期に来ています。

<参考：種差海岸に関わる主な選定一覧>

名 称	認定年	対 象
日本の白砂青松 100 選	昭和 62 年	種差海岸
新日本観光地百選	昭和 62 年	八戸
日本の音風景百選	平成 8年	八戸港・蕪島のウミネコ
日本の渚・百選	平成 8年	大須賀海岸
日本の灯台 50 選	平成 10 年	鮫角灯台
遊歩百選	平成 14 年	種差海岸遊歩道
美しい日本の歩きたくなるみち 500 選	平成 16 年	種差海岸遊歩道
快水浴場百選	平成 18 年	白浜海水浴場

なお、この地域は、名勝地の文化財価値を保持するため規制地区となっているほか、種差海岸階上岳県立自然公園の規制区域など、いくつかの規制が重複していることから、各事業を進めるに当たっては、これらの関係法令に十分留意しなければならない地域となっています。

<参考：種差海岸に関わる主な関係法令>

- ・天然記念物「蕪島ウミネコ繁殖地」指定地域内
 - ・・・文化財保護法、鳥獣保護法(鳥獣保護区特別保護地区)
- ・名勝種差海岸・・・文化財保護法、鳥獣保護法(鳥獣保護区)
- ・種差海岸階上岳県立自然公園・・・青森県立自然公園条例
- ・海岸関連・・・港湾法、海岸法
- ・漁業関連・・・漁業法、漁港漁場整備法
- ・土地関連・・・都市計画法

4. 計画期間

本計画の期間は、平成19年度から平成23年度までの5年間とします。

なお、計画の進捗状況や社会経済状況にあわせ、必要に応じて見直しを行うものとします。

5. 計画の範囲

(1) 区域

JR八戸線鮫駅から南東の金浜までの約14kmの海岸線地域とします。

(2) メンバー

八戸市をはじめ、種差海岸の許認可や整備事業に係る国及び県等の関係機関、地元住民、観光協会などの観光関連団体、食堂・民宿などの事業者、自然保護グループやNPOなどの活動団体、そして市民や来訪者など、種差海岸に関わりのあるあらゆる機関、団体、個人がそれぞれの役割を担うこととします。

第2章 種差海岸観光ビジョンの基本理念



美しい砂浜が続く白浜海岸

1. 観光ビジョンの基本理念

種差海岸は私たちの宝物 光をあてて磨きます



「どこかの天体から来訪者があつたら一番先に案内したいところ」と司馬遼太郎が絶賛した種差海岸の美しさを後世に伝えることを約束するとともに、その美しさを誇りに思い、最大限に磨き上げ、心と経済の豊かさにつなげることを目指します。

3つの基本理念

自然という財産を守る

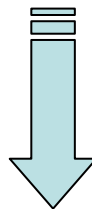
種差海岸の自然を美しいまま後世に伝えます。

地域経済に潤いをもたらす

種差海岸を賑わいのある場所とし、地域経済に潤いをもたらします。

心の豊かさを育む

種差海岸を誇りに思い、心の豊かさを育みます。



地域が元気になります

2. ビジョンの推進体制

(1) 推進体制について

種差海岸観光ビジョンを実現していくために、市、市民、観光事業者、観光関係団体等がそれぞれの役割を担うと同時に、互いに連携しながら推進していきます。

(2) 基本的な役割分担

◆ 八戸市

国や県と連携しながら種差海岸の特性を活かした観光振興を図る施策を講じます。

◆ 市民・地元住民・活動団体

ビジョンに対する理解と関心を深めるとともに、種差地域における観光振興に関する取り組みに参画することを期待します。また、おもてなしの心で観光客を迎えることに期待します。

◆ 観光事業者

事業活動を通じて快適なサービスを提供し、観光客の満足度の向上に努めることを期待します。また、市が実施する観光振興に関する施策に協力することを期待します。

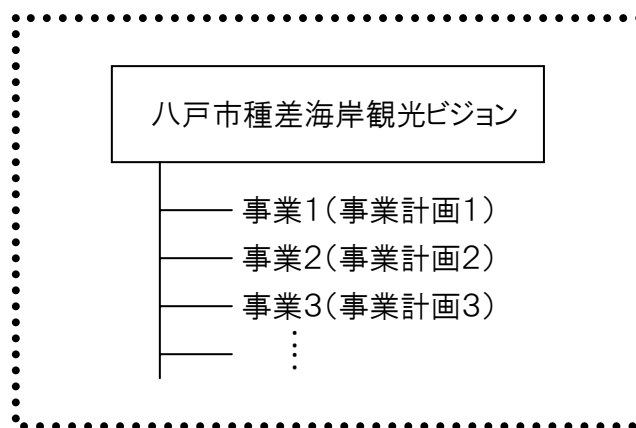
◆ 観光関係団体

業界及び業種の枠を超えた連携を図りながら、その事業活動を行うことに期待します。また、自らが担うべき役割や事業目的を認識し、観光情報の発信、市民や観光客の誘致、受入れ態勢の整備等に積極的に取り組むことを期待します。また、市が実施する観光振興に関する施策に協力することを期待します。

(3) 事業別計画

ビジョンを推進するにあたっては、各種事業を展開することとし、市が主体となる事業については、個別に観光ビジョンを踏まえた事業計画を策定します。

計画の体系



第3章 基本方針と取組み



高岩展望台からの眺望

1. 自然環境の保全の取組み

私たちは、「種差海岸」という美しい自然に囲まれて暮らしている幸せを認識する必要があります。そこには、雄大な海のほか、植物、動物、鳥、昆虫等自然の宝物があふれています。

私たちには、これら託された財産を未来の子どもたちのために適切に管理・保存し、伝えていく責務があります。観光振興は観光資源があつてこそ成り立ち、これらの景観、自然を計画的に守り、保全・維持していくことに取り組みます。

- ◆海浜植物の保護に関する正しい知識を共有する。
- ◆海浜植物の保護を重視した遊歩道の見直しをする。
- ◆ウミネコの保護に関する正しい知識を共有する。
- ◆種差海岸の自然をどういった状態で保護するのかについて方向性を打ち出す。

2. 環境美化の取組み

観光資源を美しく保つという意識を高め、海岸の清掃、水質の保全など地域ぐるみの環境美化活動に取り組みます。

- ◆環境美化に取り組んでいる活動を支援する。
- ◆海の水質を保全するための啓発活動に取り組む。

3. 種差ミュージアムの拠点施設整備の取組み

種差海岸の素晴らしさを通年で楽しんでもらうためには、雨天時にも対応できる休憩施設や名勝地としての魅力を紹介する機能を持つ施設が必要であると考えます。また、観光振興は地域経済に潤いを持たせる大きな役割を果たすことから、農林水産物や地場製品の販売をする施設も必要であると考えます。

このことから、さらなる魅力を発信する来訪者の拠点となる施設の建設を検討します。

- ◆道の駅の機能を有する施設を検討する。
- ◆ビジターセンターの機能を有する施設を検討する。
- ◆種差海岸を訪れた文人等を紹介する機能を有する施設を検討する。
- ◆地場製品等の販売機能を有する施設を検討する。

4. 地域の食文化と食の魅力を高める取組み

八戸市は水産のまちとして全国にその名を知られておりますが、八戸地方には水産物のもとより、地域独特の食べ物や食べ方が豊富にあります。また、旅の醍醐味は、「その地域でとれたものをその地域の食べ方でおいしく食べる」ことにもあります。

認知度調査の結果で来訪者の食に対する満足度が非常に高かったことから、食の魅力を伝えることが観光振興をする上では大切なことであると考えます。

このことから、来訪者のニーズに応えるために地産地消を積極的に推進し、地域に伝わる食文化や食の魅力を活かした取組みを進めます。

- ◆ 飲食店や民宿などと連携し、地元の食材や浜料理の積極的な提供を検討する。
- ◆ 店舗情報を整備する。
- ◆ 生産者と消費者の交流による魅力的な商品開発を検討する。
- ◆ インターネットでの通信販売など、物産販売ルート拡大に努める。
- ◆ 漁業体験を通して食の魅力を伝える観光メニューづくりを進める。

5. 人にやさしい観光地(種差ミュージアム)づくりへの取組み

多くの人々が訪れる場所には、わかりやすい案内や便利で快適な施設を整備することが必要であることから、ハード面、ソフト面で全ての人にやさしいミュージアムを目指します。

また、観光情報だけではなく、災害情報も発信する安心・安全なミュージアムを目指します。

【ハード】

- ◆ 案内板、観光案内所、遊歩道、東屋、ベンチなどの整備を行う。
- ◆ 快適なトイレの整備、管理を行う。
- ◆ 景観を阻害するものについては撤去を検討する。

【ソフト】

- ◆ ガイドブック、ガイドマップ、ホームページなどの充実を図る。
- ◆ バリアフリー情報を提供する。
- ◆ おもてなしの心を醸成する。
- ◆ 鉄道、バス等の公共交通情報をわかりやすく提供する。

【危機管理】

- ◆ 災害時などの状況を素早く発信する。

6. 北三陸との連携を促進する取組み

種差海岸は三陸海岸の起終点に位置しています。県境をまたいだ岩手県北との広域連携は、当市が三陸海岸と一帯であるというイメージを定着させることができるほか、観光客の視点に立った地域内の回遊性の向上にもつながることから、両地域の特色を十分に活かした観光振興施策に取り組めます。

- ◆歴史や文化、食などの共通項目でネットワーク化し、新たな魅力を生み出す。
- ◆JR八戸線と三陸鉄道の連携を進めるとともに、国道45号を活かした北三陸との連携のあり方について研究する。
- ◆北三陸地域の市町村と連携し、北三陸のブランド化を図る。
- ◆北三陸と連携した旅行雑誌を発行する。
- ◆三陸・八戸観光キャンペーンを開催する。

7. 種差海岸への誘客を促進する取組み

首都圏在住者を対象とした認知度調査では、種差海岸・燕島は5.3%という低い結果でした。この結果を踏まえ、たくさんの文人、芸術家が絶賛した種差海岸へ多くの人に訪れてもらうために、戦略的な誘客促進を図ります。

また、来訪者が種差海岸に関しての歴史、自然、動植物、訪れた文人等を知ることは、種差海岸の魅力を深く味わえることにつながることから、それらの機会を設ける工夫をしながら誘客促進に努めます。

- ◆テレビ、雑誌、ホームページなどを活用した情報発信をする。
- ◆世代や地域などターゲットを絞った広告・宣伝をする。
- ◆旅行会社等に旅行商品の造成を働きかける。
- ◆自然と食をミックスした広告・宣伝をする。
- ◆キーパーソンを招き、種差海岸の価値を認めてもらうなど、戦略的なPRを行う。
- ◆地域の自然、暮らし、文化などを活用した体験型の観光メニューづくりを進める。
- ◆拠点施設に学習コーナーを設置する。

8. 観光ボランティアの育成の取組み

種差海岸は、散策するだけでその景観や自然の魅力を五感を通して十分に満喫できます。さらに観光ボランティアによる解説を聞いたり、地元ならではのおもてなしの心に触れながら散策することによって、知識や心も満たされ、より深い感動や感激が生まれます。

種差海岸に多くの人に訪れてもらうためには、ハード面の受入れ態勢の整備だけではなく、来訪者の方々に「来てよかった」「また来てみたい」と思ってもらえる観光ボランティアによるソフト面の受入れ態勢づくりも重要です。

このことから、観光ボランティアの育成を図るとともに、活動支援に努めます。

- ◆ガイドマニュアルの整備やガイド養成のための定期的な講習会を開催するなどガイドの育成を図る。
- ◆観光ボランティアの活動の拠点となる施設整備を検討する。

9. 次世代継承への取組み

種差海岸は、市民のかけがえのない財産としてこれまで引き継がれてきました。この貴重な財産をこれからも引き継いでいくためには、子どもたちに環境の保全と歴史を伝えていく必要があります。

また、海とともに発展してきた八戸の海に、より親しむことが、八戸市民には大切なことです。種差海岸という財産を有している八戸に生まれ育ったことを誇りに思い、自らもまた語るができるような市民を育成するために、学習の機会を設ける等の取組みを検討します。

- ◆種差海岸の保全に関する正しい知識とこれまでの歴史を次世代に継承していくための施策を検討し、推進していく。
- ◆学校教育、社会教育の教材としても活用できるガイドブックを作成し、「種差学」を展開する。
- ◆市内の子どもたちに種差海岸へもっと足を運んでもらうように学校行事と連携を図る。

第4章 種差ミュージアム 地区別ビジョンと課題



海岸に咲き乱れる海浜植物

ここでは地区別ビジョンの概要と課題について記述します。

各地区の現状とビジョンを示したほか、市民とともに今後十分検討していかなければならないことを課題として明記してあります。

1. 燕島・小舟渡地区

～ウミネコの繁殖地・国の天然記念物燕島と八戸市水産科学館マリエント～

【現状】

(1)ウミネコの繁殖地燕島

ウミネコの繁殖地として国の天然記念物に指定されている燕島(標高 17m、面積 1.8ha、周囲 800mの島)は、もともとは離島でしたが、昭和 17 年に旧日本海軍により埋め立て工事が行われ、今は島が陸続きとなり、人間が簡単に往来することができます。ウミネコの繁殖地は全国に十ヶ所程度ありますが、ほとんどが人を寄せ付けない断崖絶壁や離島であり、間近で営巣の様子を見ることができる世界唯一の場所です。

(2)八戸市水産科学館マリエント

八戸市の通年観光文化施設です。展示室には大水槽のほか八戸を代表するイカ・ウミネコなどの習性・生態について学ぶことができるコーナーやウミネコシアター(DVDシアター)、その他に約 10mのツチクジラの骨格標本があります。展望室やレストランからは雄大な太平洋を望むことができます。

【地区のビジョン】

貴重な資源であるウミネコの繁殖地燕島を保全するとともに、燕嶋神社の価値や魅力を情報発信し、1度は必ず訪れたい名所としてウミネコの季節以外でも来訪者で賑わう地区を目指します。

また、燕島・小舟渡エリアを1日中滞在できる場所とするため、マリエントを中心に鮫地区の食堂、遊覧船クルーズ、磯遊びなどを活用し「見る・食べる・聴く・遊ぶ・休む・買う」機能の連携ルートの構築を目指します。

【課題】

- ◆ 燕島付近への車両進入制限の検討と賑わい創出
- ◆ ウミネコの糞問題
- ◆ 燕島海水浴場の復活
- ◆ JR鮫駅前の賑わい創出
- ◆ マリエントから葦毛崎展望台までの道路拡幅

2. 葦毛崎・中須賀地区

～四季折々に海浜植物が咲き誇る花の渚～

【現状】

(1) 葦毛崎展望台

八戸小唄に「鮫の岬は潮けむり～」と歌われる岬は葦毛崎展望台周辺のことです。眺望の素晴らしさは、名勝指定地内ではトップクラスで、季節ごとに咲き乱れる草花の見所にもなっています。この葦毛崎展望台は遊歩道の起終点でもあります。

(2) 中須賀

岩礁の入り江に沿って遊歩道があり、植物鑑賞の拠点の一つで、種差海岸を代表する景勝地になっています。釜の口付近にはベンチもあり、海を眺めながらの休憩も可能です。

【地区のビジョン】

平地で高山植物を楽しめる貴重な場所であることから、植物の保全を重視した取り組みを行います。

また、県道沿いにある東山魅夷「道」の標柱にちなみ、ありのままの自然を楽しむスポットとして、この付近を「道」の原画風景に復元することを検討します。

【地区の課題】

- ◆水道(みずみち)を遮断しない生態系に配慮した遊歩道の改築

3. 大須賀・白浜地区

～鳴き砂である美しい砂浜とプレイピア白浜～

【現状】

鳴き砂としても知られるこの砂浜は、約2kmの遊歩できる砂浜として東北北部では最大規模となっています。北側の白浜海岸は波も高く遊泳禁止ですが、南側の白浜は海水浴場になっており、7月上旬から8月下旬までの期間、多くの海水浴客で賑わいます。この地区は、日本の渚・百選、快水浴場百選などにも選ばれています。

平成18年からビーチクリーナーによる砂浜清掃を行っており、美しい砂浜を維持していくために官民が連携して積極的に取り組んでいます。

【地区のビジョン】

この美しい砂浜にビーチサッカーやビーチバレーの大会を誘致するなど、海水浴場開設期間外も賑わう場所とするため、関係者と協議していきます。

【課題】

- ◆ 食堂、土産売り場の充実
- ◆ プレイピア白浜の活用

4. 深久保・種差地区

～爽快な松並木と天然芝生地～

【現状】

(1) 淀の松原

樹齢 80 年以上の黒松並木が続き、その太い幹や枝葉越しに変化あふれる海岸を望むことができます。また、遊歩道から見える白岩と、海の青、松の緑の美しい対比が見どころとなっています。

(2) 種差海岸天然芝生地

海岸線まで天然芝が広がる全国的にも稀な異国情緒を漂わせる景勝地で、種差海岸の中で最も多くの観光客が訪れる場所です。

【地区のビジョン】

淀の松原においては、JR八戸線の車窓から海が見え隠れする景観を復元させます。

また、種差海岸天然芝生地前を種差ミュージアムの拠点として位置づけ、観光サービス施設の整備を検討します。

【地区の課題】

- ◆ 松の成長により変化し続ける景観の維持管理
- ◆ 駐車場から芝生地への安全な移動経路
- ◆ 芝生地内にあるトイレの撤去
- ◆ 文人案内板付近への東屋の建設
- ◆ 吉田初三郎画伯「潮観荘」の復元
- ◆ JR種差海岸駅前の賑わい創出
- ◆ 種差キャンプ場の整備

5. 高岩・大久喜・金浜地区

～北三陸に一番近い手つかずの地～

【現状】

(1)高岩展望台

高岩展望台は、種差海岸の中で最も高い場所にあり、鮫角灯台から岩手県境まで眺望できる景勝地です。また眼下には、海浜植物が咲き乱れる景観やエメラルドグリーン色にきらめく法師浜を見ることができます。

(2)大久喜

大久喜地区には、サーファーが訪れる大久喜海岸や初秋にはハマギクが咲き乱れる弁天島、国の重要有形民俗文化財に指定されている漁撈用具と江戸時代末に建てられた浜小屋、明治時代に千島列島探検と開拓を目指した郡司大尉の遭難の碑、大久喜漁港などがあります。

(3)金浜

金浜地区は、隣町の階上町に隣接する市境に位置し、しばしばサーファーが訪れる美しい海岸線と金浜漁港を有する地区です。

【地区のビジョン】

高岩周辺は、整備された遊歩道を散策する種差芝生地以北の遊歩道とは対照的に、海岸沿いや林間部に自然に作られた獣道や散歩道を歩くコースとして最小限の整備に留め、種差海岸の上級者ウォーキングコースとして情報発信していきます。

大久喜地区及び金浜地区は、土地を管理する地元漁業関係者・住民とサーファーとの良好な関係の構築を目指していきます。

【地区の課題】

- ◆駐車場の確保
- ◆サーフィンで賑わう海岸
- ◆国重要有形民俗文化財「浜小屋」や郡司大尉遭難の碑の有効活用
- ◆ウミネコの繁殖が確認されている弁天島の保全

第5章 種差ミュージアムの全体図



来訪者に説明するボランティアガイド